

## 2. 滋賀県大津市龍家文書調査

渡部 凌空

### 1. 概要

龍家文書は、膳所藩南庄村（現滋賀県大津市伊香立南庄町）で郷代官や庄屋を勤めた龍家に伝来した文書群で、現在は大津市歴史博物館（以下市博）に寄託されている。なお龍家文書の一部は、すでに「文化元年南庄村出土龍骨関係資料」として大津市の指定文化財となっている。京都府立大学文学部歴史学科文化情報学研究室では、昨年度より調査を継続している。

調査参加者 東昇（教員）、竹中友里代（特任講師）、釜野祥江、徐凡凡、趙金実（以上博士前期課程）、小島慧音、渡部凌空（以上4回生）、岩間智哉、山蔭晴人（以上3回生）、上武恒介（2回生）、古文書に触れる会参加者（1・2回生）

### 2. 内容

本年度も引き続き、主にラベル貼付、文書撮影、目録作成を実施した。5月9日に箱3に含まれる追加の文書337点を搬入し、昨年度までに調査した文書の一部を市博へ返却した。これにより箱2と箱3を合せて、同文書群の総点数は1,342点となった。その他、5月15日には現地調査をおこない、文書が収められている蔵・長持、龍家の由緒に関わる伏龍祠（写真1）などの現状を確認した。

また、夏休みには1・2回生を対象とした「古文書に触れる会」で同文書群を扱った（写真2）。参加者は、文書の撮影、目録作成、ラベルの貼付をおこない、古文書整理について実践的に学ぶことができた。

調査は現在までに箱2（96点）のラベル貼付、および箱2と箱3一部の文書撮影と目録作成が完了した。今後は引き続き文書整理とその分析を進め、報告書を執筆する予定である。



写真1 伏龍祠



写真2 古文書に触れる会の様子

#### 編集後記

余裕をもって仕事に取り組みたい。一つ仕事が終わる度に今度こそはと思うが、今回も果たせなかった。文字通りバタバタ。年末から長い師走が続いている。一つの救いは、春からのフィールドワークに始まり、冬の集報に終わるこの一連の営みが、10号を越え、府大歴史学科の伝統として根付きつつあること。フィールドをご提供いただいた関係各所のご厚意に深く感謝申し上げたい。

なお本書の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの合同実習メニューとして学部生がAdobe社のInDesignを利用しておこなっているが、もちろんそのままでは本にはならない。一書にまとめるにあたって力を尽くしてくれた大学院生の頑張りにも深く感謝したい。(い)

---

京都府立大学文学部歴史学科

## フィールド調査集報 第11号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

発行日 2025年3月31日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2

---